

10月9日(土) 第1回「GM 熟議場 in 北大」まとめ

1. 参加者とグループ編成

グループ1 中村、芝池、竹田、立川、 ファシリテータ F 信濃、サブ F 吉田

グループ2 池野、佐々木、安居、丸子、 F 平川、サブ F 上田

■並び方(最初) 竹田 安居

吉田 池野 見守り(飯澤、立川、信濃、平川)
 中村 芝池 佐々木 欠席(大館、木下、瀬川)

タイムテーブル		担当	備考
11:00	開始	全員応対	飯澤: 監督(開会閉会の挨拶)
12:30	第一部 データを読み込む		上田: 総合司会
11:00~11:10	手順の説明・開会挨拶(5分程度)	司会 上田	吉田: 全体討論司会
GM 熟議場の位置づけ(5分以内)	手順説明	挨拶 飯沢	信濃・平川: 記録・タイムキーパー
11:10~11:25	全員1分以内で自己紹介	位置 吉田	キーパーソンズ
11:25~12:30	全員(係り・オブザーバ含)音読分担→上田司会(20分)	上田+	池野・大館・佐々木・芝池・瀬川・竹田・中村・安居
全体討論(司会)…8人意見を寄せてもらい質問しあう	M 吉田	オブザーバー	立川・丸子
12:30	昼食	各自	
13:30	第二部開始: 北海道 GMO 問題議論で今後課題にした方がいいという	上田 開始	飯澤: タイムキーパー
16:20	うことを討論	飯澤先生→時計係	締めくくりの挨拶
13:30	グループ討論(45分+5分)		上田: 司会+サブ F
1 F 信濃 サブ F 吉田			信濃: GF+全体討論 1 司会
2 F 平川 サブ F 上田			平川: GF+ PC 支援
各 G KJ 法: 模造紙に書き込み、整理する作業を行う			吉田: サブ F+全体討論 2
14:15	グループ報告(信濃、平川)(5分)	上田仕切り	丸子さんと立川さん
14:20	全体討論 1 (25分) 本日の課題・討議項目決定……………	信濃仕切り	→グループ討論に加わってもらう
5分	各グループの報告を吟味(移動して)		
15分	吟味する項目5つまで書き出し(一枚に一つ)		
8人と信濃で並べ替え・整理			
5分	上位3つを選択: 確認し、項目の確定		
14:45	休憩 15分		
15:00	全体討論 2: 本日の課題(45分)……………		
15:45	まとめの議論(30分)	吉田+	
15:45	8人のまとめ意見出し合い……………10分	信濃	10分間の集約の間:
15:55	各自意見を箇条書き→平川に渡す……………10分		司会信濃で、
16:05	集約(平川 PC+吉田 PC) 10分		・立川さんと丸子さんから
16:15	確認 5分	上田、平川報告を促す	コメントをもらう
(印刷)			・次回日程の調整確認と、次回テーマについての確認作業。
16:20	16:20~25 まとめの報告	・報告平川	
16:25	閉会 次回日程確認	上田	
16:30	閉会挨拶(飯澤コメント)	飯澤	

■グループ討論

◆◇◆グループ1 (赤と黄)

セーフティー・ネット

- ・ GM 生産者へのセーフティー・ネットを検討しては？ (e.g. 保険) (風評被害防止)
- ・ 北海道農業のビジョン (「クリーン」だけでは不十分) を担い手や経済なども含めて再検討する
- ・ 野生生物ではなく畑のものに交雑、その保障は？ (作物別に考える)

情報

- ・ GM 技術を利用した生物 (作物を含む) がどのように私たちの身のまわりにあるか？ どういう利用例なら受け入れられるのか考える。(今現在のモノにとらわれないこと)
- ・ マスコミの改革 難しいしできないとおもうけど→ 項目2
- ・ どんな作物に導入の可能性があるのか→道民に伝える・・・方法

具体的に作ったときどうなるか

- ・ 農家経営、地域経済への影響について検討する (アメリカでもレポートが出ている)
- ・ 様々な立場から win-win でのアイデアを出す
- ・ GM 作物を利用したビジネスモデルを検討してみ余地はないか？ (芝池：企業や行政の立場にたってみる) (吉田注：その際には、憂慮する市民としてのそのビジネスモデルへの批判的視線も必要になる)
- ・ どんな作物が開発されているのかを知って、そのメリット・デメリットについてじっくり考えて、どんな問題が出てくるのかを虚心坦懐な気持ちで考える

技術

- ・ GM 作物を作ったとき、目的以外の他の形質を伴う可能性 (ある遺伝子を導入した時に、意図しない形質発現があった場合、それをどう考えるか)
- ・ 遺伝子組換え生物と遺伝子組換え食品の違い (組み換えナタネとそれを原料とするサラダ油)
- ・ 技術×適用分野を考え、社会的受容の大小について精査する
- ・ 技術開発の妨げとなる反対はしたくない
- ・ 遺伝子組換えによる技術ではどんなものがあるのか (作物でなく) 利害関係者

◆◇◆グループ2 (青)

具体化

- ・ 多くの道民にとって GMO は食べるものだけか。どのように関わりをもっているか身近に感じるために
- ・ 今の北海道は GM NON と宣言していると言ってよいか
- ・ GM 作物を作ったら消費者は受け入れるのか。どのような作物なら理解できるのか
- ・ GM の商業栽培をする行動案。同時に、GM なしの農業・酪農の可能な方策
- ・ 第2世代の GM については認めるのか？
- ・ 飼料作物、綿花など食べない GM 作物は OK か？
- ・ もっと GM で作るほうが農産物に良い結果をもたらすのかの比較研究をしてもらうのは
- ・ GM 作物他の作物に影響を与えたら、どのような保証問題がおきるのか
- ・ 具体的な課題を取り上げ行動計画を立てる。農家の課題。解決法案の提案。→酪農・大豆栽培 何が必要かを見るために→ 項目1
- ・ 実際に進める上での手順 (コンプライアンス) → 項目1
- ・ 罰則や規制をどうするか→項目1

情報・伝達

- ・ より GM [作物についての情報を消費者と生産者に伝える手段を講じる方法は？

- ・ GM の光と影を別けて言う。まとめる。発信の基礎
- ・ GM に関する議論の活性化・一般化
- ・ 一般道民への発信法 ネット Q&A リーフレット 道民ブックレット

他

- ・ 何故 GM 作物を栽培したいのか? ⇒ (★吉田注: この質問には、栽培してほしくないのか? の問いも含めて会合のどこかで一度は話し合ってみよう)
- ・ 丘珠空港のジェット化と GM 導入は似ているか

■全体討論1：課題項目の書き出し

項目1 具体的な(事例について)討論を

- ・ 消費者・生産者が受け入れやすい GM 作物について議論を深める
- ・ 代表的な GMO について光と影と Q6A を議論、発信・・・(関連書籍多数あり)
- ・ 道内で栽培に向け研究されている GM の栽培された場合のプラスとマイナス
- ・ 実際に GM 作物の栽培を進める上での手順(コンプライアンス)(注: 条例による規制の再確認も)
- ・ 罰則や規制をどうするか
- ・ 消費者のデメリットと北海道のデメリットの違い*
- ・ 間接 GM の危険・不安のリストアップ*
- ・ 酪農・農村の仕事を知る*

項目2 伝え方(★信頼される関係構築も含む)

- ・ 信頼される関係を行政と研究者が作る(芝池: 市民は加わらないのか)
- ・ 北海道流、北海道だからと言われても良い議論、発信
- ・ 多くの生産者が望む GM 作物のメリット・デメリットの情報を消費者に提示する
- ・ マスコミの改革

項目3 北海道の農業の将来像

- ・ クリーン農業との整合性をどうするのか 道は・・・
- ・ 北海道農業の将来を考える必要性 持続可能性 循環型
- ・ 高付加価値農業の戦略
- ・ 手間ひまをかける

■全体討論2: 「項目1を考え始める」→糸口を探す話し合い→次回考えることの討論項目の決定

→ 全員で加筆したもの(完成版)

⇒ 順番や構成等については、今後、順にお知らせいたします。

<次回討論項目/宿題>

- ・ ある作物 例(イネ)、ある特性(飼料)の GM 作物を想定して、実用化に至るまでにどのような点を検討しなければならないか整理してみる。生産者消費者のニーズ、法律なども含む
- ・ GM 稲の飼料が流通—市場にのるのか
- ・ 研究者への、ほしい作物について、実験の可能性研究(if 市民が求めるとして、どういうものか)
- ・ 栽培可能な GM 作物について、作りたい生産者の意見・要望について聞く
- ・ 栽培可能な GM 作物についてのメリット・デメリット(第1世代、第2世代)
- ・ 実際に進める上での手順(コンプライアンス、周辺住民への説明、マスコミとの付き合いを含む)
- ・ 遺伝子組み換え作物のイネのはなし。作る北海道・作らない北海道(転作の増加)

- ・ 罰則や規制をどうするか

次回、上記の討論項目を話し合います。項目2は中々難しいですが、今後よろしくお願ひします。また、項目3は、コンセンサス会議市民の提案の「北海道農業の将来に関する二つの態度」にも関連しますが、クリーン農業を含め、北海道農業に何を願うかについての根源的な問ひも含んでいます。この「AかBか」以外の選択肢はないのかも含め、私たち道民が考えてみることは必要なことだと思ひます。

次回11月20日(土)では、名古屋のmop5の成果「名古屋・クアラルンプール補足議定書」についても話題になるかもしれませんね。

文責：吉田省子(まとめ 10月25日)